

令和4年7月1日

令和3年度 特別の教育課程の実施状況等について

学校名	管理機関名	設置者の別
立命館小学校（外校）	学校法人立命館	私

1. 学校における特別の教育課程の編成の方針等に関する情報

学校名	特別の教育課程の編成の方針等の 公表 URL
立命館小学校	http://www.ritsumeikan-trust.jp/file.jsp?id=535966&f=.pdf

※必要に応じて行を追加すること。

2. 学校における自己評価・学校関係者評価の結果公表に関する情報

学校名	自己評価結果の公表 URL	学校関係者評価結果の公表 URL
立命館小学校	http://www.ritsumeikan-trust.jp/file.jsp?id=540661&f=.pdf	http://www.ritsumeikan-trust.jp/file.jsp?id=540661&f=.pdf

※必要に応じて行を追加すること。

3. 特別の教育課程の実施状況に関する把握・検証結果

(1) 特別の教育課程編成・実施計画に基づく教育の実施状況

- 計画通り実施できている
- 一部、計画通り実施できていない
- ほとんど計画通り実施できていない

(2) 実施状況に関する特記事項

※(1)で「一部、計画通り実施できていない」又は「ほとんど計画通り実施できていない」を選択した場合は、必ず記載する。

特になし

(3) 保護者及び地域住民その他の関係者に対する情報提供の状況

- 実施している
- 実施していない

<特記事項>

特になし

3. 実施の効果及び課題

(1) 特別の教育課程の編成・実施により達成を目指している目標との関係

第1学年からの教科「英語」導入においては、「真の国際人の育成」として、英語力の向上は、第6学年段階で中学3年生レベルの実力を持つほどになり、また、英語力向上に向かう姿勢は立命館大学の国際学生への積極的な参加にも繋がっている。また本校を卒業した児童は、中学校や高等学校においても、国際教育の場面では大変活躍できている。課題は、更なる英語力や国際理解力を高めるための指導を考えていくことである。

第1学年からの教科「情報」については、第1学年から第4学年までのロボティクス中心の学びと第5学年から第6学年のICT機器活用中心の学びで、系統的なカリキュラムが作られるようになった。同時に、プログラミング的思考力育成も継続して取り組んでいくことができた。今後は、個々の情報処理能力を更に高め、より積極的な機器の活用をねらいに、学習への効果的効率的な一つの道具となるよう指導を考えていきたい。

(2) 学校教育法等に示す学校教育の目標との関係

法令に従いながら、その目標達成に努めることを大前提に、教科「英語」においては、国際人として活躍できる人材育成を目指し、そのツールとなる外国語（英語）の運用能力の基礎を学習した児童を育てる。教科「情報」においては、プログラミングや情報処理のスキルに長けた児童の育成を図り、更に、正しく情報化社会と向き合える児童の育成を目指す。

また、学習指導要領に定める内容に基づいて教育課程を編成し、小学校教育の目標達成に努め、教科「英語」においては、調査・研究をさせたり、発表や質疑・討論を英語で行わせたりすることで、「総合的な学習の時間」の目標である自ら課題を見つけ、学び、考え、判断する資質の育成に努める。教科「情報」においても、課題に対して、研究・発表を行う学習単元をおくことで、「総合的な学習の時間」の教育目標を達成できるように努める。

4. 課題の改善のための取組の方向性

方向性として修正することはないが、まだ発展途上の状況にあるので、更に、英語によるインプットの指導を深め、アウトプットの場面を計画的に導入し学んだ英語がしっかりと使える英語として身に付けさせ、コミュニケーション力と国際理解力向上を目指していく。情報においては、自ら考え判断する力を大切にしながら、学習ツールとしての機器活用力を身に付けさせていくようにする。